

2015/1/15

柏の景気情報（平成26年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年12月分）

○ 調査期間 : 平成26年12月17日 ~ 12月26日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	84	53.8%
建設	44	26	59.1%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年12月の調査結果のポイント】

◀業況DIは悪化。長引く円安やコスト増の影響で先行きも慎重な見方▶

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.1(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲22.2(同▲25.0)である。変わらない業種は、サービス業▲13.3(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲68.0(同▲53.5)、建設業▲15.3(同▲9.5)である。

【建設業】からは「受注単価は上昇傾向にある」(板金金物工事業)、「外灯、工場等の照明灯のLED器具への変換が出ている。仕入単価が上昇しているので、利益増は見込めず」(電気工事業)、「新築住宅は減少。リフォームは堅調」(その他の職別工事業)、「相変わらず業況は改善されないままの状況が続いている。採算が合わず、受注しなかったこともあり、売上は数ヶ月減少が続いている。売上が減少している分、当然利益も減少しているが、利益率的には現状の方が良い結果となっている」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「福島原発関連で年末から来年3月まで短納期物件が増加」(特殊産業用機械)、「引き続きウイスキーの個人消費は堅調も年明けには落ち着くと推測」(酒類製造業)、「売上高は上昇しているが、単価値引きの要請がある。値引きに協力できない場合、他の業者に発注することを仄めかされた。ボーナスはいつもより多く支給出来た」(その他の金属製品製造業)、「昨年のような仮需要が少なく、今年は平年並みの売上に戻った」(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「これまで12月は頭一つ売上が良かったが、3年位前より平月と全く変わらない位落ちてきた。ミニセールを実施したり、粗品を付けたとしても反応は良くない。コート類の売上も頭打ち感が強い。客単価は落ちていないが、客数が減少」(婦人・子供服小売業)、「来春の専門店エリアの大規模リニューアルを控えた売り尽くしセールの盛り上がり期待」(書籍・文房具小売業)、「青果物では12月中旬まで、主要品目の野菜において入荷減、単価安の過去に経験の無い取り扱い減少が続いていましたが、最近の冷え込みから需要が増加傾向にあり、一部の品目で高値となり、やや持ち直しています。しかし、これまでの取り扱いから厳しい状況にあります。年末年始の商材をより多く集荷することに努力して、消費者のニーズに応じていきたい」(食料・飲料卸売業)、「序盤は婦人コートなど冬物衣料の動きが鈍く、活性化を期待するも衣料品の苦戦が継続。中盤以降はクリスマス商戦ピーク時から婦人衣料の動きが活性化。宝飾・時計などの高額は、増税反動はあるものの時計は好調に推移。食品は前月好調であったお歳暮ギフトが、12月は日曜日が1日減もあり苦戦。クリスマスケーキ及びおせちの予約状況は前年並みに推移」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「過去10年間を比較しても最高売上げ」(酒場・ビヤホール)、「賞与時期と重なり、来春物(1~3月販売予定)の先物仕入をしたため資金繰りが厳しい」(その他の飲食料点小売業)、「全体的に問い合わせ件数が減ってきています。駅に近い環境の良い物件は動きが早いです。条件の悪い物件、交通の便が悪い物件、日当たりの悪い物件は動きが遅いです」(不動産管理業)、「住居系の賃貸需要の繁忙期入り。転出転入の頻度は現時点では予測不可です。住居系賃料消費税は非課税ですが、コストに関しては消費税がかかるので実質の負担増は避けられない。また、事業系も含め賃料を押し上げるだけの環境でもない。今後の更なる増税やコスト増に対応出来るよう業務内容や経費等の見直しを適時行う予定です」(不動産賃貸・管理業)、「秋頃から動物性油脂(ラード)が少なくなるという話があり、11月末より全く入って来ないので、植物性(大豆油)で代替している」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

「個人需要では、年末年始のカレンダーの日並びは良いが、円安のため海外旅行が前年割れ。特にロング方面(ヨーロッパ、北米)が想定よりも振るわず」(旅行業)、「為替の影響により海外発注先との価格交渉が難航している」(その他の機械・同部品製造業)、「円安のため仕入れ単価は上昇。個人消費落ち込み。先行き不安です」(時計・眼鏡・光学機械小売業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

「ステンレスに続きアルミの価格が高騰し機械原価率への影響が大きい」(その他の機械・同部品製造業)、「材料の値上げが止まりません」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

「従業員は事務系は募集して翌日に多数の応募がありすぐ決まるが、パート従業員は相変わらず厳しい」(その他の飲食料点小売業)、「今後、高齢化が進み更に人手不足となりそうだ」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲22.2	△4.1	▲18.7	▲61.5	±0.0
8月	▲27.3	±0.0	▲11.7	▲66.6	▲20.0
9月	▲26.8	▲4.1	▲25.0	▲59.2	▲6.6
10月	▲21.6	±0.0	▲11.7	▲55.5	▲6.6
11月	▲28.7	▲9.5	▲25.0	▲53.5	▲13.3
12月	▲32.1	▲15.3	▲22.2	▲68.0	▲13.3
見通し	▲21.4	▲15.3	▲11.1	▲44.0	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.1(前月水準▲28.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。

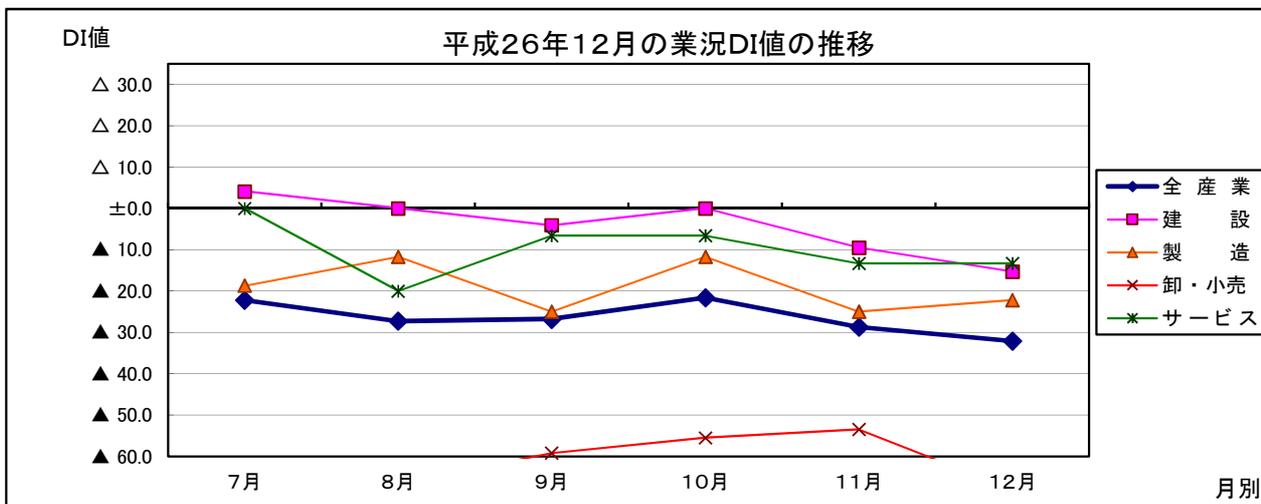
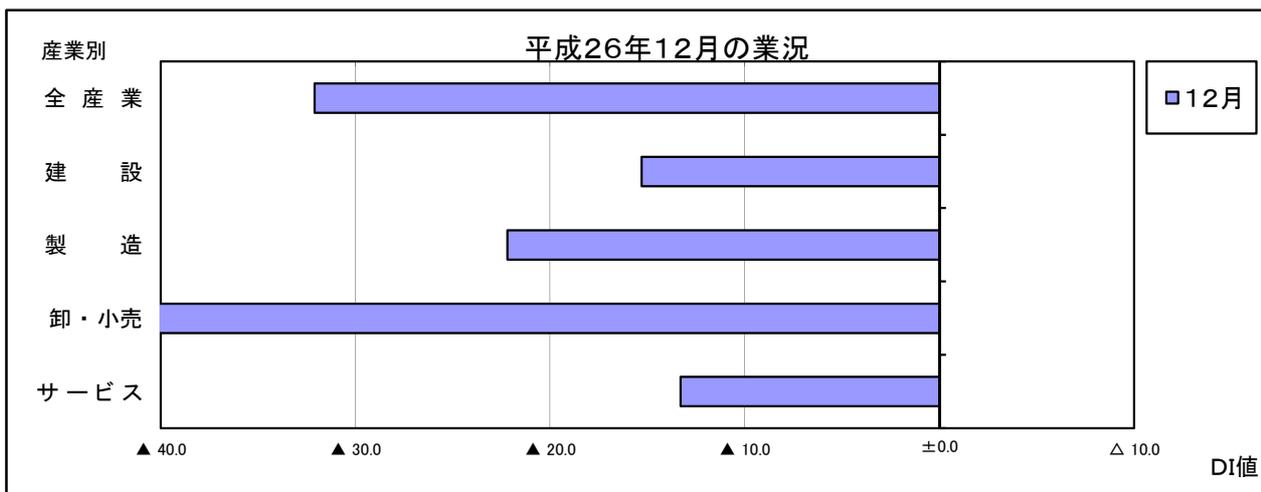
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲22.2(同▲25.0)である。変わらない業種は、サービス業▲13.3(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲68.0(同▲53.5)、建設業▲15.3(同▲9.5)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.4(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲25.0)、サービス業▲6.6(同▲20.0)、卸小売業▲44.0(同▲46.4)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲15.3(同±0.0)である。

平成26年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲22.2	▲27.3	▲26.8	▲21.6	▲28.7	▲32.1	▲21.4(▲25.0)
建設	△4.1	±0.0	▲4.1	±0.0	▲9.5	▲15.3	▲15.3(±0.0)
製造	▲18.7	▲11.7	▲25.0	▲11.7	▲25.0	▲22.2	▲11.1(▲25.0)
卸・小売	▲61.5	▲66.6	▲59.2	▲55.5	▲53.5	▲68.0	▲44.0(▲46.4)
サービス	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲13.3	▲6.6(▲20.0)



【平成26年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.3(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が7.3ポイント拡大した。

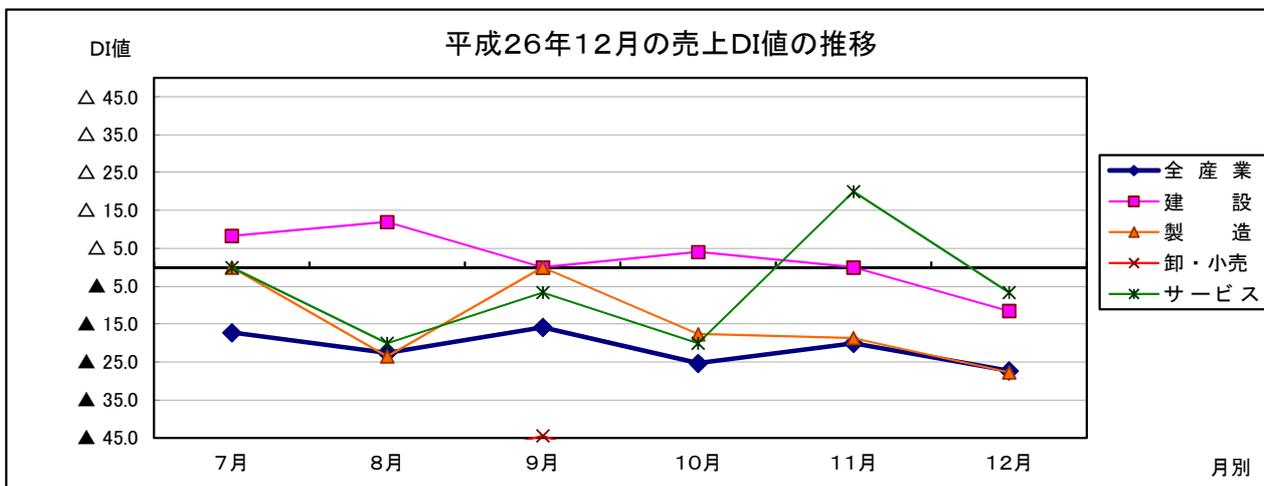
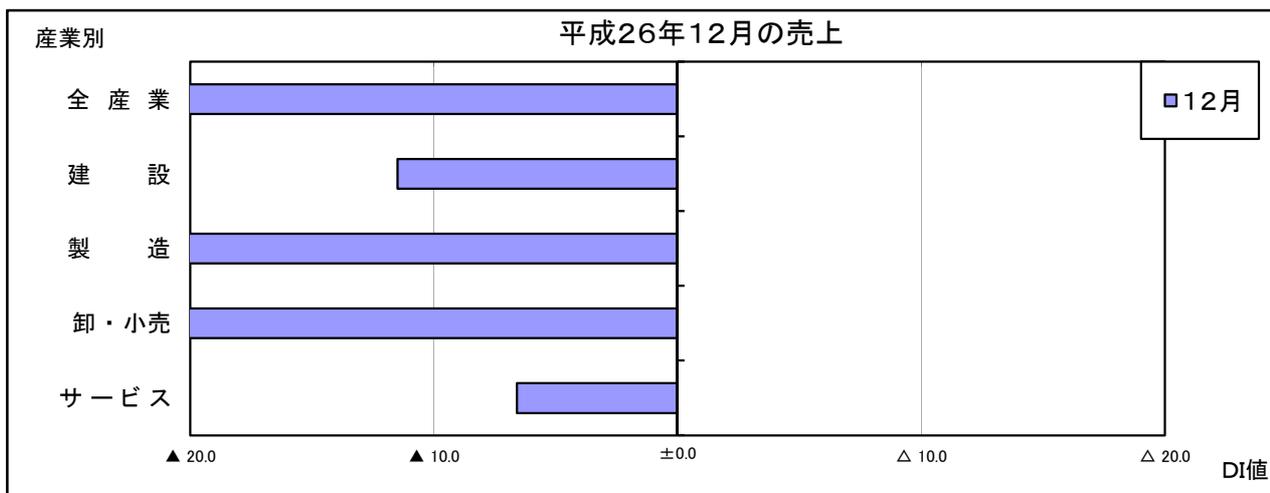
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲56.0(同▲57.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同△20.0)、建設業▲11.5(同±0.0)であり、特にサービス業は26.6ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同▲18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.5(前月水準▲16.2)となり、マイナス幅が6.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△20.0(同▲6.6)、建設業±0.0(同▲4.7)であり、特にサービス業では、26.6ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲32.0(同▲28.5)である。

平成26年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲17.2	▲22.6	▲15.8	▲25.3	▲20.0	▲27.3	▲9.5(▲16.2)
建設	△8.3	△12.0	±0.0	△4.1	±0.0	▲11.5	±0.0(▲4.7)
製造	±0.0	▲23.5	±0.0	▲17.6	▲18.7	▲27.7	▲16.6(▲18.7)
卸・小売	▲61.5	▲55.5	▲44.4	▲59.2	▲57.1	▲56.0	▲32.0(▲28.5)
サービス	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲20.0	△20.0	▲6.6	△20.0(▲6.6)



【平成26年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲27.5)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

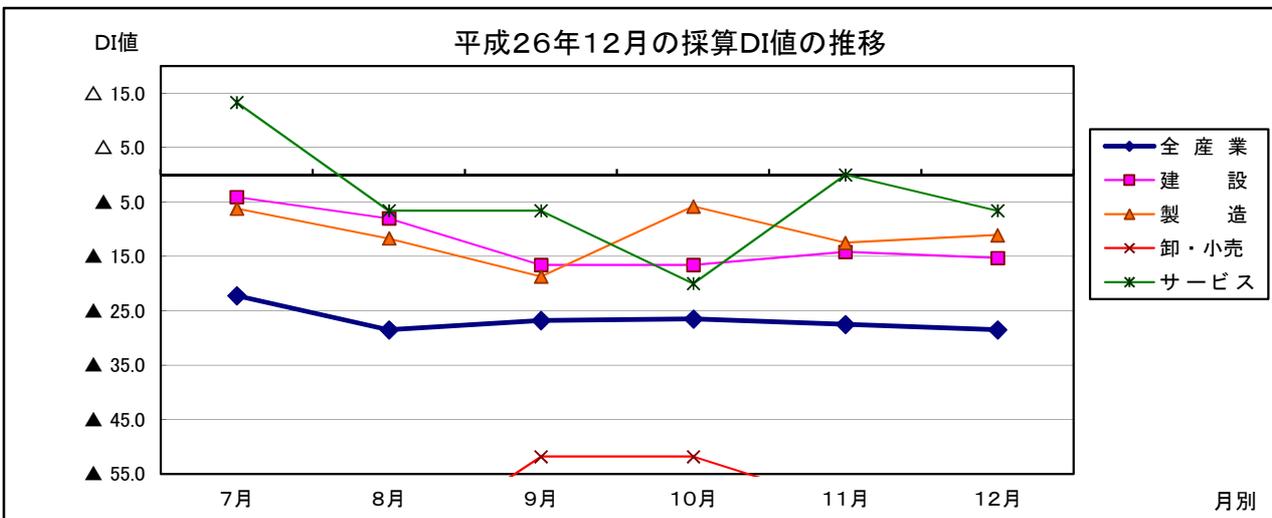
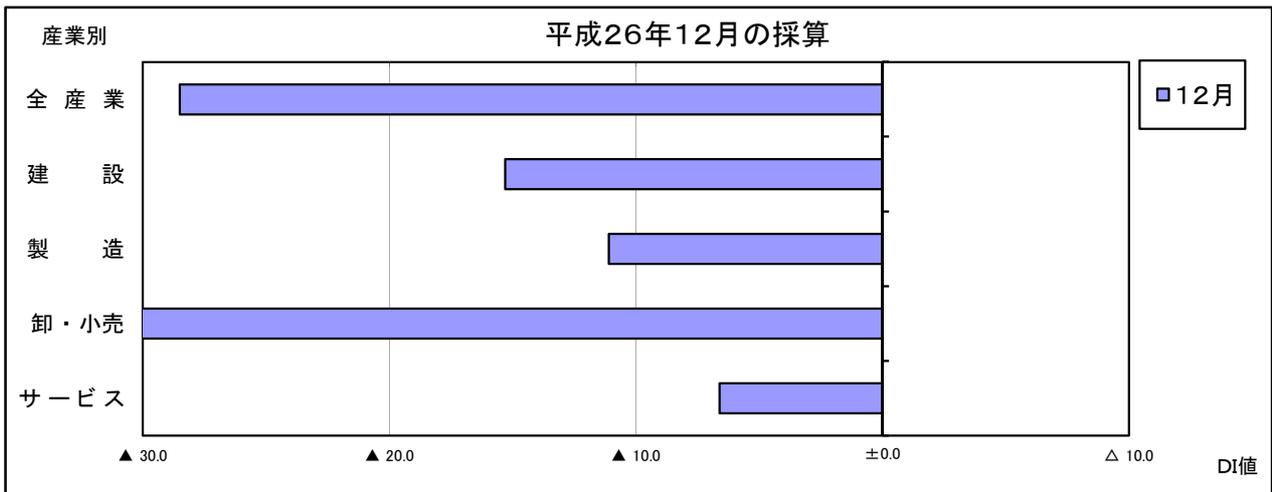
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲12.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲68.0(同▲60.7)、建設業▲15.3(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.6(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△6.6(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.0(同▲42.8)、建設業▲11.5(同▲14.2)、製造業▲11.1(▲12.5)である。

平成26年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲22.2	▲28.5	▲26.8	▲26.5	▲27.5	▲28.5	▲16.6(▲22.5)
建設	▲4.1	▲8.0	▲16.6	▲16.6	▲14.2	▲15.3	▲11.5(▲14.2)
製造	▲6.2	▲11.7	▲18.7	▲5.8	▲12.5	▲11.1	▲11.1(▲12.5)
卸・小売	▲69.2	▲70.3	▲51.8	▲51.8	▲60.7	▲68.0	▲40.0(▲42.8)
サービス	△13.3	▲6.6	▲6.6	▲20.0	±0.0	▲6.6	△6.6(▲6.6)



【平成26年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲47.6(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大した。

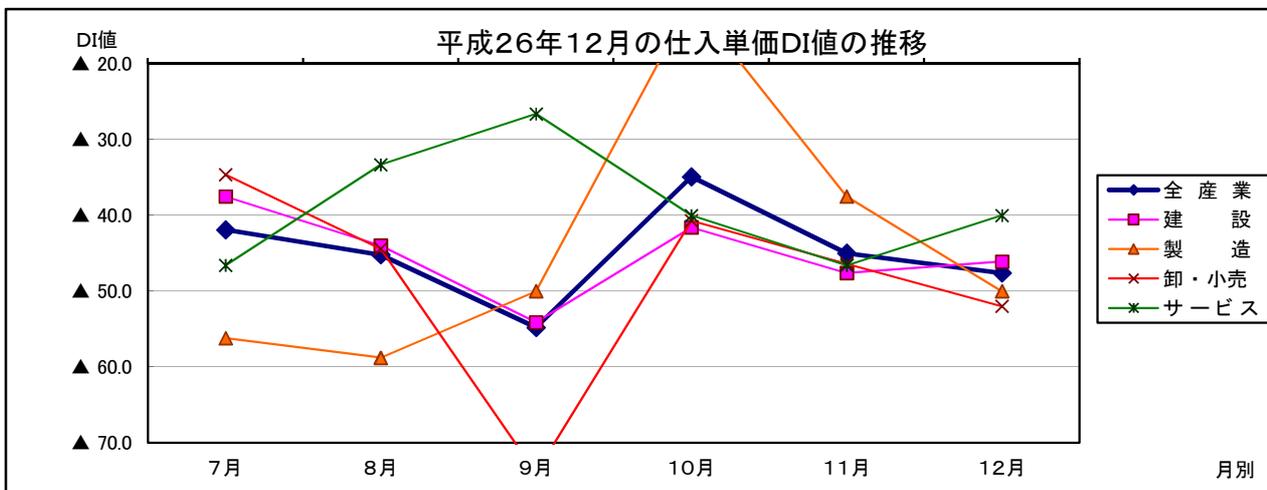
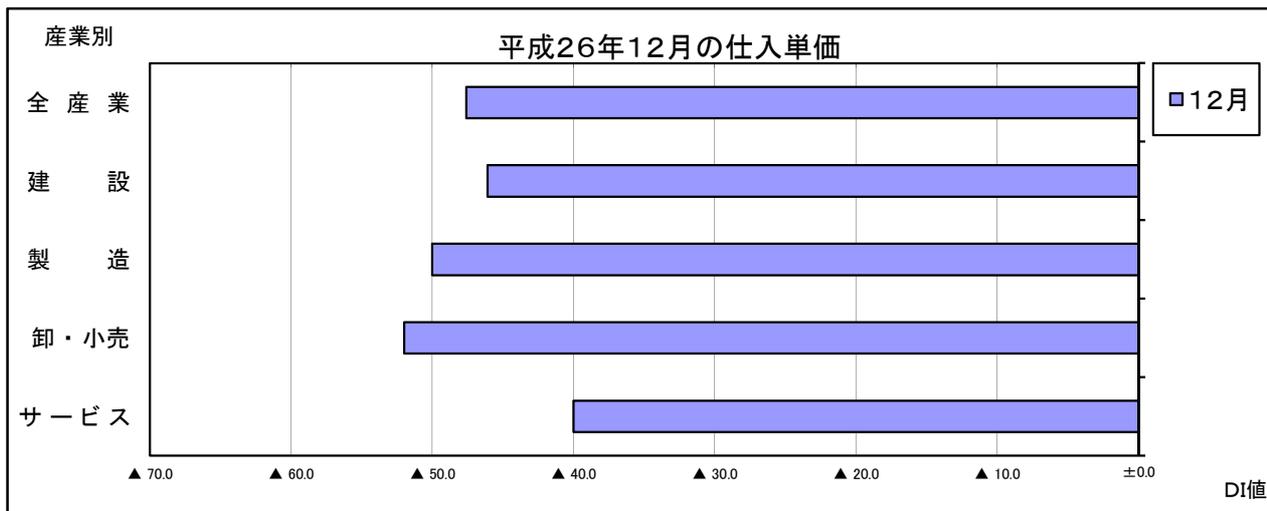
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲46.6)、建設業▲46.1(同▲47.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲37.5)、卸小売業▲52.0(同▲46.4)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.9(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲60.0)、卸小売業▲36.0(同▲39.2)であり、特にサービス業では、20.0ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.3(同▲38.0)、製造業▲27.7(同▲25.0)である。

平成26年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲41.9	▲45.2	▲54.8	▲34.9	▲45.0	▲47.6	▲36.9(▲40.0)
建設	▲37.5	▲44.0	▲54.1	▲41.6	▲47.6	▲46.1	▲42.3(▲38.0)
製造	▲56.2	▲58.8	▲50.0	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲27.7(▲25.0)
卸・小売	▲34.6	▲44.4	▲74.0	▲40.7	▲46.4	▲52.0	▲36.0(▲39.2)
サービス	▲46.6	▲33.3	▲26.6	▲40.0	▲46.6	▲40.0	▲40.0(▲60.0)



【平成26年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.7(前月水準△7.5)となり、プラス幅が2.8ポイント縮小した。

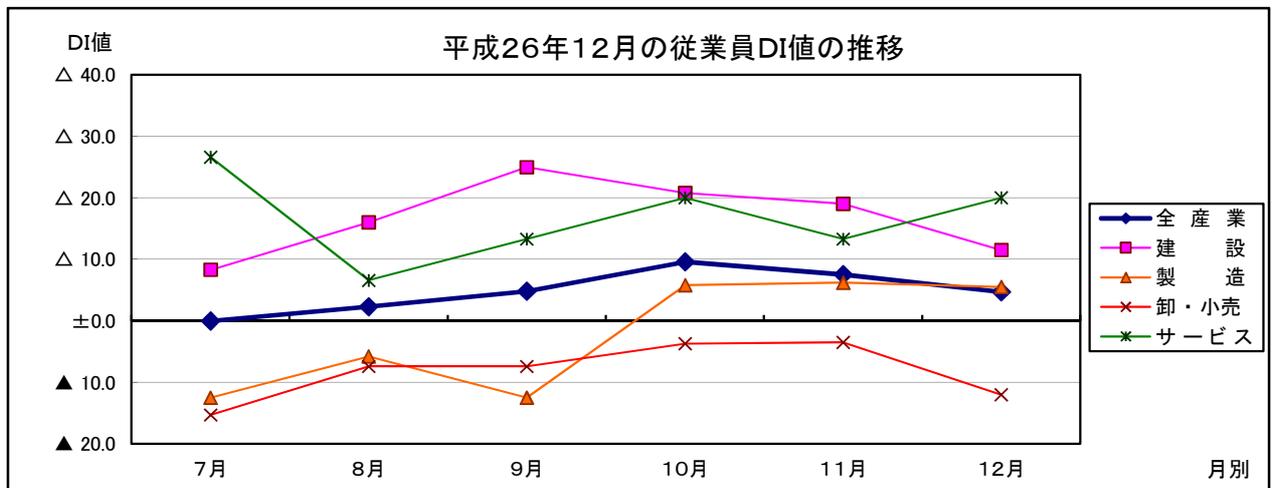
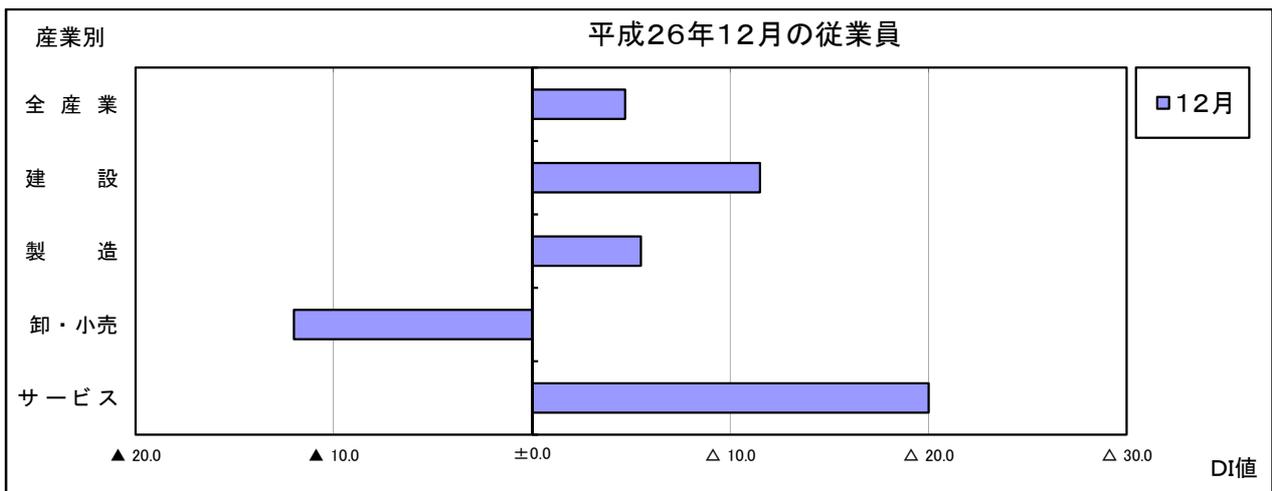
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△20.0(同△13.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△11.5(同△19.0)、製造業△5.5(同△6.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲12.0(同▲3.5)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.1(前月水準△5.0)となり、プラス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△11.1(同±0.0)、サービス業△20.0(同13.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△15.3(同△19.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲12.0(同▲7.1)である。

平成26年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	±0.0	△2.3	△4.8	△9.6	△7.5	△4.7	△7.1(△5.0)
建設	△8.3	△16.0	△25.0	△20.8	△19.0	△11.5	△15.3(△19.0)
製造	▲12.5	▲5.8	▲12.5	△5.8	△6.2	△5.5	△11.1(±0.0)
卸・小売	▲15.3	▲7.4	▲7.4	▲3.7	▲3.5	▲12.0	▲12.0(▲7.1)
サービス	△26.6	△6.6	△13.3	△20.0	△13.3	△20.0	△20.0(△13.3)



【平成26年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.9(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。

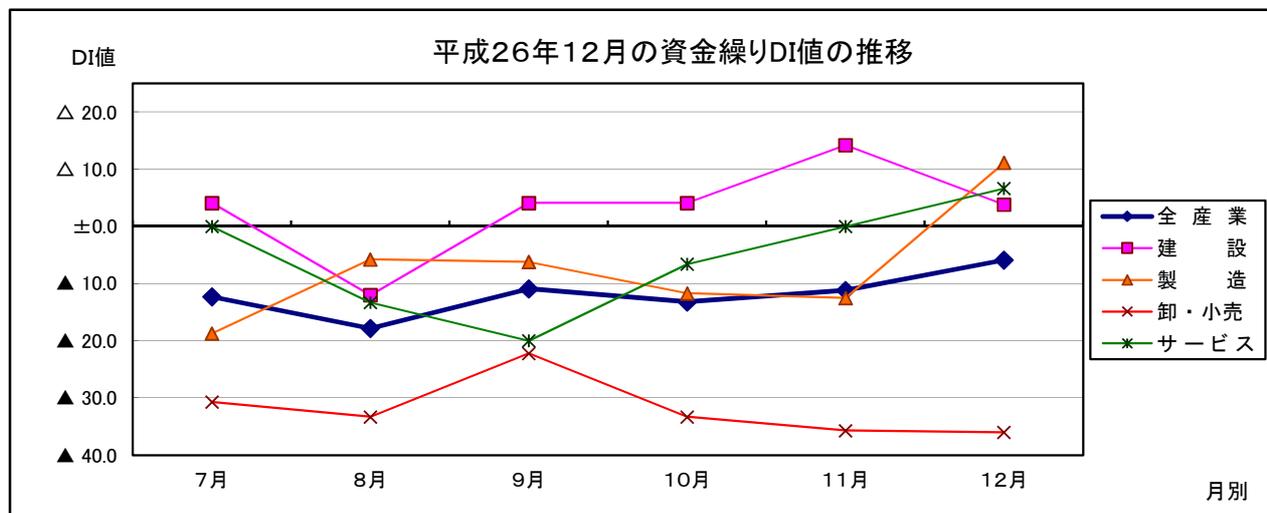
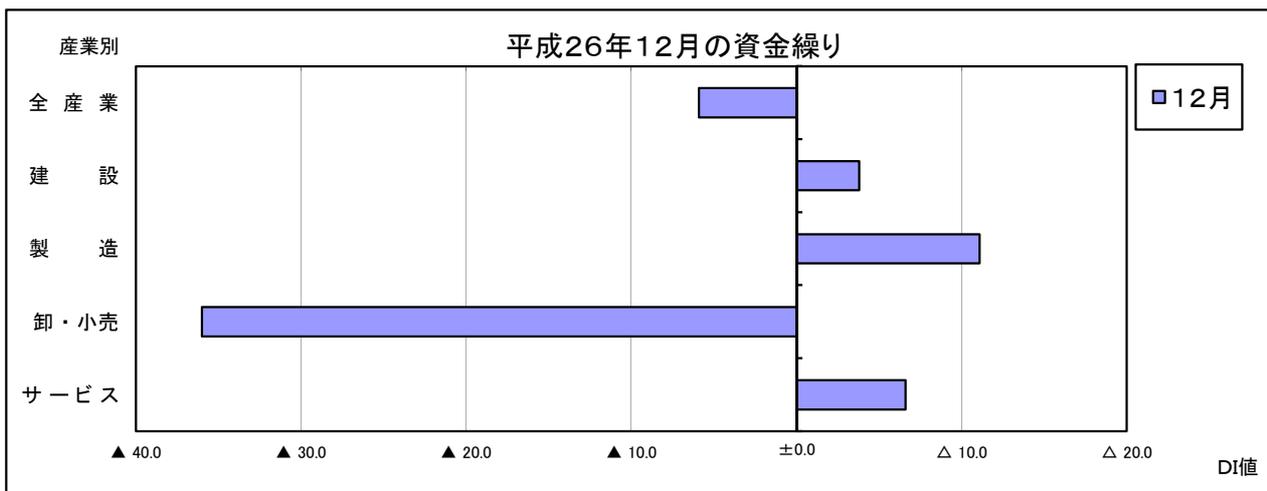
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業▲11.1(同▲12.5)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△3.8(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲36.0(同▲35.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.5(前月水準▲13.7)となり、マイナス幅が4.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△13.3(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲12.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△9.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.0(同▲35.7)である。

平成26年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲12.3	▲17.8	▲10.9	▲13.2	▲11.2	▲5.9	▲9.5(▲13.7)
建設	△4.1	▲12.0	△4.1	△4.1	△14.2	△3.8	±0.0(△9.5)
製造	▲18.7	▲5.8	▲6.2	▲11.7	▲12.5	△11.1	▲5.5(▲12.5)
卸・小売	▲30.7	▲33.3	▲22.2	▲33.3	▲35.7	▲36.0	▲36.0(▲35.7)
サービス	±0.0	▲13.3	▲20.0	▲6.6	±0.0	△6.6	△13.3(▲6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.3	▲ 9.5	▲ 28.5	▲ 16.6	▲ 47.6	▲ 36.9	△ 4.7	△ 7.1
建設	▲ 11.5	±0.0	▲ 15.3	▲ 11.5	▲ 46.1	▲ 42.3	△ 11.5	△ 15.3
製造	▲ 27.7	▲ 16.6	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 50.0	▲ 27.7	△ 5.5	△ 11.1
卸・小売	▲ 56.0	▲ 32.0	▲ 68.0	▲ 40.0	▲ 52.0	▲ 36.0	▲ 12.0	▲ 12.0
サービス	▲ 6.6	△ 20.0	▲ 6.6	△ 6.6	▲ 40.0	▲ 40.0	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 32.1	▲ 21.4	▲ 5.9	▲ 9.5
建設	▲ 15.3	▲ 15.3	△ 3.8	±0.0
製造	▲ 22.2	▲ 11.1	△ 11.1	▲ 5.5
卸・小売	▲ 68.0	▲ 44.0	▲ 36.0	▲ 36.0
サービス	▲ 13.3	▲ 6.6	△ 6.6	△ 13.3

【平成26年12月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	住宅エコポイントの復活を期待しています。	住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	人手不足が続いている。	人手不足	土木工事業
	受注単価は上昇傾向にある。	受注単価上昇	板金物工事業
	外灯、工場等の照明灯のLED器具への変換が出ている。仕入単価が上昇しているため、利益増は見込めず。	LED需要増 (原材料)仕入単価上昇	電気工事業
	原子力発電の廃炉費用まで電気料金に上乘せされているからか、電気代が高すぎる。余っている再生可能エネルギーの買取拒否をやめて原子力発電以外の電気を使いたい。	電気代高騰	内装工事業
	新築住宅は減少。リフォームは堅調。	新築住宅受注減 リフォーム工事好調	その他の職別工事業
	相変わらず業況は改善されないままの状況が続いている。採算が合わず、受注しなかったこともあり、売上は数ヶ月減少が続いている。売上が減少している分、当然利益も減少しているが、利益率的には現状の方が良い結果となっている。今後、高齢化が進み更に人手不足となりそうだ。	業況不振 不採算 売上減 高齢化 人手不足	その他の職別工事業
製造業	福島原発関連で年末から来年3月まで短納期物件が増加。	福島原発 短納期物件の発生	特殊産業用機械
	為替の影響により海外発注先との価格交渉が難航している。ステンレスに続きアルミの価格が高騰し機械原価率への影響が大きい。	円安の影響 原材料費高騰	その他の機械・同部品製造業
	引き続きウイスキーの個人消費は堅調も年明けには落ち着くと推測。	個人消費堅調	酒類製造業
	売上高は上昇しているが、単価値引きの要請がある。値引きに協力できない場合、他の業者に発注することを仄めかされた。ボーナスはいつもより多く支給出来た。	売上増加 単価値引き要請 賞与増加	その他の金属製品製造業
	昨年のような仮需要が少なく、今年は平年並みの売上に戻った。	売上平年並み	紙製容器製造業
	これまで12月は頭一つ売上が良かったが、3年位前より平月と全く変わらない位落ちてきた。ミニセールを実施したり、粗品を付けたりしても反応は良くない。コート類の売上も頭打ち感が強い。客単価は落ちていないが、客数が減少。	客数減	婦人・子供服小売業
	来春の専門店エリアの大規模リニューアルを控えた売り尽くしセールの盛り上がり期待。	売り尽くしセール	書籍・文房具小売業

【平成26年12月の業種別業界内トピックス】

卸小売	12月は選挙があり企画が選挙運動中で企画倒れ。政治不安等拭いきれず。円安のため仕入れ単価は上昇。個人消費落ち込み。先行き不安です。	円安の影響 仕入れ単価上昇 個人消費低迷 先行き不安	時計・眼鏡・光学機械小売業
	材料の値上げが止まりません。	原材料費高騰	菓子・パン小売業
	青果物では12月中旬まで、主要品目の野菜において入荷減、単価安の過去に経験の無い取り扱い減少が続いていましたが、最近の冷え込みから需要が増加傾向にあり、一部の品目で高値となり、やや持ち直しています。しかし、これまでの取り扱いから厳しい状況にあります。年末年始の商材をより多く集荷することに努力して、消費者のニーズに応えていきたい。今後、野菜や果実の品目で、クリスマスや年末年始の事業に適した売込みをもって拡大を期待したい。	青果物入荷減 需要増加 一部商品高値	食料・飲料卸売業
	序盤は婦人コートなど冬物衣料の動きが鈍く、活性化を期待するも衣料品の苦戦が継続。中盤以降はクリスマス商戦ピーク時から婦人衣料の動きが活性化。宝飾・時計などの高額品は、増税反動はあるものの時計は好調に推移。食品は前月好調であったお歳暮ギフトが、12月は日曜日が1日減もあり苦戦。クリスマスケーキ及びおせちの予約状況は前年並みに推移。	衣料品苦戦 お歳暮ギフト苦戦 クリスマスケーキ、おせち料理	百貨店
	物価上昇に賃金アップが追い付かないままなので、来年度の昇給後の購買欲に期待したい。	物価上昇 賃金アップ 購買意欲向上への期待	その他の各種商品小売業
サービス	過去10年間を比較しても最高売上げ。	売上増加	酒場・ビヤホール
	賞与時期と重なり、来春物(1～3月販売予定)の先物仕入をしたため資金繰りが厳しい。従業員は事務系は募集して翌日に多数の応募がありすぐ決まるが、パート従業員は相変わらず厳しい。業績は可もなく不可もなくの状態。	厳しい資金繰り 人手不足(パート従業員)	その他の飲食料品小売業
	個人需要では、年末年始のカレンダーの日並びは良いが、円安のため海外旅行が前年割れ。特にロング方面(ヨーロッパ、北米)が想定よりも振るわず。法人需要では、次年度春以降の案件が活発化。一方で、年度末案件の問い合わせも増加中。	円安の影響 海外旅行前年割れ 年度末案件活発化	旅行業
	全体的に問い合わせ件数が減ってきています。駅に近い環境の良い物件は動きが早いです。条件の悪い物件、交通の便が悪い物件、日当たりの悪い物件は動きが遅いです。	問い合わせ件数減少	不動産管理業
	住居系の賃貸需要の繁忙期入り。転出転入の頻度は現時点では予測不可です。住居系賃料消費税は非課税ですが、コストに関しては消費税がかかるので実質の負担増は避けられない。また、事業系も含め賃料を押し上げるだけの環境でもない。今後の更なる増税やコスト増に対応出来るよう業務内容や経費等の見直しを適時行う予定です。	賃貸需要繁忙期 コスト増 経費の見直し	不動産賃貸・管理業
秋頃から動物性油脂(ラード)が少なくなるという話があり、11月末より全く入って来ないので、植物性(大豆油)で代替している。	動物性油脂(ラード)の不足	食堂・レストラン	

◎円安の影響

個人需要では、年末年始のカレンダーの日並びは良いが、円安のため海外旅行が前年割れ。特にロング方面(ヨーロッパ、北米)が想定よりも振るわず。

旅行業

為替の影響により海外発注先との価格交渉が難航している。

その他の機械・同部品製造業

円安のため仕入れ単価は上昇。個人消費落ち込み。先行き不安です。

時計・眼鏡・光学機械小売業

◎原材料費高騰

ステンレスに続きアルミの価格が高騰し機械原価率への影響が大きい。

その他の機械・同部品製造業

材料の値上げが止まりません。

菓子・パン小売業

◎人手不足

従業員は事務系は募集して翌日に多数の応募がありすぐ決まるが、パート従業員は相変わらず厳しい。

その他の飲食料品小売業

今後、高齢化が進み更に人手不足となりそうだ。

その他の職別工事業

平成26年12月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.1に対し、「CCI-LOBO」が▲29.7で柏の方がマイナス幅が2.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.3に対し、「CCI-LOBO」が▲21.3で柏の方がマイナス幅が6.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業で、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲28.3で柏の方がマイナス幅が0.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲47.6に対し、「CCI-LOBO」が▲50.1で、柏の方がマイナス幅が2.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△4.7に対し、「CCI-LOBO」が△12.6で柏の方がプラス幅が7.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.9に対し、「CCI-LOBO」が▲14.4で柏の方がマイナス幅が8.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。

平成26年12月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 32.1	 ▲ 15.3	 ▲ 22.2	 ▲ 68.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 29.7	 ▲ 9.4	 ▲ 23.6	 ▲ 40.5	 ▲ 26.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 27.3	 ▲ 11.5	 ▲ 27.7	 ▲ 56.0	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 21.3	 ±0.0	 ▲ 17.4	 ▲ 26.2	 ▲ 14.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 28.5	 ▲ 15.3	 ▲ 11.1	 ▲ 68.0	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 28.3	 ▲ 14.9	 ▲ 27.2	 ▲ 30.2	 ▲ 23.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 47.6	 ▲ 46.1	 ▲ 50.0	 ▲ 52.0	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 50.1	 ▲ 58.5	 ▲ 53.3	 ▲ 47.7	 ▲ 44.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 4.7	 △ 11.5	 △ 5.5	 ▲ 12.0	 △ 20.0
CCI-LOBO	 △ 12.6	 △ 23.5	 △ 4.7	 △ 1.2	 △ 17.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 5.9	 △ 3.8	 △ 11.1	 ▲ 36.0	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 14.4	 ▲ 7.2	 ▲ 13.4	 ▲ 18.0	 ▲ 10.4

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成26年12月11日～17日

調査対象：全国の422商工会議所が3156企業
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、回復に力強さ
欠き足踏み続く。先行きもコ
スト増から慎重な見方

12月の全産業合計の業況DIは、▲29.7と、前月から▲3.7ポイントの悪化。円安進行を受けて仕入先からの値上げ要請が相次ぐなど、コストの増大が収益を圧迫する状況が続く。また、個人消費は一部で外国人観光客の増加に伴う売上増がみられるものの、家計負担が増す中、消費者の生活防衛意識が高まるなど、回復に力強さを欠く。中小企業においては、足元の原油安が好材料となる一方、受注・売上の伸び悩みや収益改善の遅れ、先行きの不透明感などから、秋以降、足踏みの状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲29.6(今月比+0.1ポイント)と、ほぼ横ばいを見込む。中小企業においては、堅調な雇用環境の中、株価上昇や政府の経済対策などを期待する声が聞かれる。他方、一部で原油安に伴う負担の緩和がみられるものの、円安進行による一段のコスト増や家計負担の増大を背景とする消費者のマインド低下などへの懸念が払拭できず、先行きの不透明感から、慎重な見方が続いている。

ている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事は増加傾向が続くものの、民間工事は伸び悩み。今後の経済対策等に期待したい」(一般工事業)、「人手不足が続く中、女性1名を正社員として採用。今後も、積極的に女性の雇用を進める」(左官工事業)、「ベニヤなどの建築資材の価格が前年比で2割上昇。年明け以降も一段の上昇が見込まれ、経営が厳しい」(建築工事業)

【製造業】「消費者の購買意欲が低く、駆け込み需要が出始めた前年に比べ、受注は2〜3割減の状況が続いている」(衣料品製造業)、「急激な円安進行に伴い、原材料価格が上昇。価格転嫁したいが、足元の需要が鈍く、値上げできる状況にない」(製材業)、「受注は回復しつつあるが、電力料金や資材価格の上昇が大きな負担となっており、先行きが不安」(成型機等製造業)

【卸売業】「円安に伴い、仕入先から商品の値上げ要請が相次いでいる。他方で、個人消費が依然として弱いため、売上への影響が心配」(日用品卸売業)、「電力料金や仕入価格上昇分を転嫁できていないため、原油安が進み、燃料費が抑制できても、収益改善には至っていない」(食料品卸売業)、「カーナビやETC車載器などの受注の回復が遅れている」(車載機器等卸売業)

【小売業】「消費者のマインドが依然として弱く、堅調な食料品以外は前年割れの状況が続く」(総合スーパー)、「クリスマス商戦の出足が好調なほか、強い寒波の到来とともに冬物衣料の売上も伸びている」(百貨店)、「メーカーからの要請により、1月から商品の仕入価格が1割上昇するため、採算は一段と厳しくなる」(家具販売店)

【サービス業】「ガソリン・軽油価格の下落が続いており、採算の好転に期待できる」(運送業)、「客単価は伸びているものの、それ以上に食料品などの仕入コストが上昇し、対応に苦慮している」(飲食店)、「外国人観光客の利用が好調。来春からは台湾との直行便が増便するため、一層の集客が見込まれる」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲19.7	▲2.1	▲14.1	▲22.2	▲41.0	▲16.5
8月	▲20.5	▲4.8	▲10.9	▲27.3	▲43.0	▲16.7
9月	▲24.2	▲10.4	▲13.1	▲30.5	▲42.2	▲24.9
10月	▲24.5	▲11.3	▲11.3	▲34.3	▲44.0	▲22.8
11月	▲26.0	▲10.2	▲18.8	▲34.6	▲46.9	▲22.0
12月	▲29.7	▲9.4	▲23.6	▲40.5	▲48.7	▲26.0
見通し	▲29.6	▲15.7	▲24.5	▲43.9	▲44.0	▲23.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI